

Anniversary camp 2019 in Halden Norway
30 years with Wado Academy and 40th summer camp

和道アカデミー（ノルウェー）サマーキャンプに参加して

和道流空手道連盟

副理事長 押田良光



はじめに

この度、宗家からお誘いをいただき、和道アカデミー・ノルウェー支部のサマーキャンプに参加するという貴重な機会をいただきました。

キャンプは、(現地時間の) 2019 年 6 月 27 日 (木) から 29 日 (土) まで開催され、三代宗家・大塚博紀最高師範のほか、和道アカデミーからイギリスのアーサー (Arthur Meek) 先生も指導に来られました。

また、キャンプでの指導者として私も指名を受け、グループごとに順繰りに指導をさせていただくことになりました。しかし、外国での指導は何分初めてのことであり、恐る恐るという感じで臨んだのが正直なところです。

以下、キャンプを通じて諸々感じたことを記してみます。

※ 和道アカデミー・ノルウェー支部

支部長 オイスタン先生

支 部 16 支部に約 1000 名の会員を擁する

オイスタン先生は、今年で 40 回目を迎えるサマーキャンプに皆勤賞だそうです

合宿初日

合宿開始当初から指導に当たる予定の宗家・最高師範が、エールフランス機のトラブルで

到着が一日延び、初日の指導はアーサー先生と私の二人で受け持つことになってしまいました。初日の参加者は、白帯から黒帯まで（大人と子供も交え）約70名くらいです。この人数を二つのグループに分けて、アーサー先生から半分を私に指導するようにと振られてしまいました。

いきなりのことなので、オイスタン先生やアーサー先生に「何を指導したらよいか？」と尋ねるも「先生にお任せします」とのこと。さて困ったぞ・・・。

それなら、いつも総本部道場や築地道場でやっている基本の動き（身体の繋がりの確認動作から基本への移行）をやってみるか・・・と腹をくくりました。



昇級・昇段審査に見るアカデミーの稽古内容

合宿初日の稽古も無事に終わり、ホテルに帰ったところに宗家もフランスから到着、2日目の稽古から宗家の指導も始まりました。しかし、2日目の稽古も、今度は3つのグループに分けて、第一のグループを宗家が、第二のグループをアーサー先生が、そして第三のグループを私が・・・というように、それぞれのグループを持ち回り交代しながら指導することになりました。

グループを交代するので、宗家やアーサー先生が何を指導しているのか？を時々チェックしながら自分の番になった時には違ったことを指導しなければなりません。つまり、指導者がどのくらい引き出しを持っているかが試されるのです。

二代宗家や三代宗家から、「欧米諸国での稽古内容や指導レベルの高さ」については度々伺ってはいましたが、実際に稽古風景や指導風景に触れてみると毎年海外を巡回指導なさっ

ている宗家・最高師範の大変さが身にしみてわかりました。



昇級審査・昇段審査実施

合宿2日目の稽古終了後に昇級審査が、そして3日目の合宿終了後に昇段審査が行われ、私も昇段審査員の一員に加えていただきました。

その審査内容ですが、基本項目だけでも順突き、逆突き、蹴りを加えての順突き・逆突き等の移動基本から始まり、飛び込み突き・飛び込み流し突きのほか応用技が数多く入り（昇段審査では57拳動も続く）、受験者のスタミナを問うような厳しいものでした。さらに、形、基本組手、応用組手（日本における基本組手の裏のようなもの？）、自由組手と続きます。もちろん、技の出来不出来はありますが、とにかく審査内容の濃さと審査に要する時間の長さは、日本における昇段審査とは比べようもないほど厳しいものでありました。



※ 和道流独特の技術の習得という意味合いでは、日本においても大いに見習うべき点が多々ありました。一方で、技の大本となる体幹を中心とした身体の使い方をもっと重視しても良いのではとも感じました。

和道流のグローバル化

この表現が適切なのかどうか分かりませんが、今回の遠征で宗家の指導を拝見し、また、アカデミーのアーサー先生やオイスタン先生をはじめとするノルウェーの指導者の先生方とお話しをさせていただき、流祖から二代宗家、そして三代宗家へと受け継がれている和道流の技術は、基本はキチンと受け継がれつつも、それぞれの先生の創意工夫と研鑽によって身体の使い方も変化をしているでしょうし、三代宗家におかれては、体幹作用、筋肉作用などを具体的に解明・説明されるようになり、我々弟子がより深く技を理解する道標を与えてくださっています。

そして、その流れは世界各国（地域）の和道流門下生へと同じ血で流れています。これこそが和道流のグローバル化といってよいのではないのでしょうか。

和道流指導者の海外派遣

宗家ともお話しさせていただきましたが、今回初めて外国で稽古風景を拝見し、自分自身も稽古に参加し、また指導もさせていただきました。その過程で痛切に感じたことは、**外国の指導者たちは宗家・最高師範から直接指導を受けることを渴望している**のにくらべ、日本では、総本部道場の月例稽古や全国指導者講習会・研修会など最高師範から直接指導をいただける機会が多くあるものですから、どうしても外国の指導者に比べて**ハングリーさに欠ける**ような気がいたします。それが、稽古に取り組む温度差にもなっているのではないのでしょうか？

連盟事務局長として、合宿方式での全国講習会・研修会の復活も検討しますが、国内の技術指導員、師範の方々から選抜して宗家の海外指導に同行していただくことなども、今後の和道流空手道連盟の重要課題になってくるものと思います。

来年の東京オリンピックには初めて空手競技が導入されます。その記念すべき大会には、去年の和道流全国大会高校女子組手の部で優勝し、その後、第3回ユースオリンピックでも金メダルを獲得した、ノルウェーのアニカ・サーレ選手の出場が期待されます。

そのような流れの中で2021年には、和道流空手道連盟国際大会が開催されることになっております。この順風ともいえる流れの中で「正統和道流ここにあり！」の意気込みを是非とも示そうではありませんか。

最後になりましたが、今回の良き機会を与えてくださった三代宗家・大塚博紀最高師範と、私の通訳として同行してくださった総本部道場のマルコ・ブルサーチ氏には、心からの感謝を申し上げます。そして、私自身の今後のさらなる精進をお約束して報告を終わらせていただきます。